

令和元年度 施策事業の進捗状況・評価一覧

【基本方針 1】多様な交通手段を「つくる」・・・詳細は別紙 1 - 1 参照

目標指標	基準年	評価年	進捗評価	備考
① 公共交通夜間人口カバー率	89.8% (H29)	91.9% (R1)	着実に増加	
② 都市計画道路の整備率	71.2% (H29)	71.5% (H30)	着実に増加	
③ 自転車走行空間の整備延長	40.0km (H29)	49.9km (R1)	着実に増加	
施策の名称	成果・課題と取組方針			
(1) 多様な公共交通を充実させる	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内交通の導入自治会の拡大により、公共交通夜間人口カバー率が上昇 ・LRT整備やバス路線再編の検討、市街地における新たな生活交通導入の検討など、多様な公共交通の充実に向けた取組が進捗 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・LRTの整備やバス路線の充実、地域内交通の拡充、市街地における生活交通の確保など、市民の日常生活の足となる多様な公共交通の更なる充実を図ることが必要 		
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、LRT整備やバス路線再編、地域内交通の導入自治会の拡大、市街地における生活交通の導入に取り組む。 		
(2) 公共交通や自動車が円滑に通行できる幹線道路等を整備する	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路等の改良や交差点の立体化により、都市計画道路の整備率が上昇し、道路交通の円滑化や安全性・利便性が向上 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・NCCの形成やLRTの導入を見据え、拠点間の連携強化や自動車交通の適切な分散が図られるよう、優先化・重点化を図りながら幹線道路等の整備に取り組むことが必要 		
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点間を結ぶ道路やLRT沿線、交通結節点にアクセスする道路などの優先度の高い路線の整備に重点化を図りながら、引き続き、幹線道路等の整備に取り組む。 		
(3) 自転車や歩行者が快適に移動できる環境を整備する	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示の整備により、自転車利用者や歩行者の安全性・利便性が向上 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行空間の整備を継続するとともに、ラストマイルを支える交通手段として、シェアサイクル導入の検討が必要 		
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、連続性の確保に配慮しながら、自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示の整備に取り組む。 ・シェアサイクルの導入可能性について検討を進める。 		
重点事業名称	進捗評価(◎:予定通り ○:概ね予定通り △:一部未実施)			
LRTの導入	◎			
バス路線の充実	○	路線の維持方策の検討に不測の日数を要したため		
地域内交通の充実	◎			
市街地における生活交通の確保	○	運行計画の調整に不測の日数を要したため		
都市計画道路の整備	○	用地取得に不測の日数を要したため		
スマートインターチェンジの整備	○	用地取得に不測の日数を要したため		
自転車走行空間や歩行空間の整備	◎			
シェアサイクルの充実	◎			
合計	◎:4 ○:4 △:0			

※進捗評価は、当該年度当初に予定した事業内容の進捗状況の評価

【基本方針2】交通手段と交通手段を「つなぐ」・・・詳細は別紙1-2参照

目標指標	基準年	評価年	進捗評価	備考
① 都心部と各拠点間の公共交通による移動時間	47分 (H29)	47分 (R1)	進捗していない	バス再編やICカード導入が実施前のため
② 都心部と各拠点間の公共交通の運賃負担	最大 800円 (H29)	最大 810円 (R1)	進捗していない	バスの上限運賃制度が導入前のため
③ 交通ICカードによる運賃支払いの割合	未導入 (H29)	未導入 (R1)	進捗していない	ICカードが導入前のため
施策の名称	成果・課題と取組方針			
(1) 多様な交通手段の乗り換え施設を整備する	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・トランジットセンターの工事着手や駅西側へのLRT導入を見据えた交通結節機能等の検討など、多様な交通手段の乗り換え施設の整備に向けた取組を推進 ・バスと地域内交通の乗り継ぎポイントとなるバス停の待合環境の整備により、乗り換えの利便性が向上 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・トランジットセンターの整備に継続して取り組むとともに、駅西側のLRT導入を見据えた交通結節点の検討が必要 ・バスと地域内交通の乗り継ぎ環境の向上に継続的に取り組むとともに、LRTと地域内交通の乗り継ぎ利便性の向上が必要 		
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、トランジットセンターの工事等に取り組むとともに、駅西側のLRT沿線のまちづくりと連携した交通結節点整備の具体化を図る。 ・引き続き、バスと地域内交通の乗り継ぎポイントとなるバス停の待合環境の整備とともに、LRTと地域内交通の連携強化に取り組む。 		
(2) 他の交通手段への乗り換えを円滑にする	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携ICカードの導入を決定し、システム・機器の設計、開発に着手するなど、公共交通の乗り換えの円滑化に向けた取組を推進 ・バスの上限運賃制度の具体的な制度内容の検討を行うなど、公共交通の運賃負担軽減に向けた検討を推進 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携ICカードの導入に継続して取り組むとともに、導入による効果を高めるため、ICカードの普及促進が必要 ・バスの上限運賃制度の導入など、公共交通の運賃負担の軽減に取り組むことが必要 		
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域連携ICカードのシステム・機器の開発に取り組むとともに、ICカードの普及促進に取り組む。 ・バスの上限運賃制度の導入に向けて、具体的な制度内容を決定するとともに、制度の周知に取り組む。 		
重点事業名称	進捗評価(◎:予定通り ○:概ね予定通り △:一部未実施)			
トランジットセンターの整備	◎			
公共交通の運賃負担の軽減	◎			
交通ICカードの導入	○	名称・デザインの決定に不測の日数を要したため		
合計	◎:2 ○:1 △:0			

※進捗評価は、当該年度当初に予定した事業内容の進捗状況の評価

【基本方針3】状況に応じて適切に交通手段を「つかう」・・・詳細は別紙1-3参照

目標指標		基準年	評価年	進捗評価	備考
① 公共交通の年間利用者数		3,353 万人 (H28)	3,480 万人 (H30)	着実に増加	※評価年にDC期間を含む
② 交通での移動に関する市民満足指標	・公共交通ネットワークの充実	25.1% (H29)	28.0% (R1)	概ね向上	
	・道路ネットワークの充実	39.1% (H29)	36.1% (R1)		
	・自転車のまち宇都宮の推進	26.1% (H29)	27.5% (R1)		
③ 人にやさしいバスの導入率		53.2% (H29)	57.2% (R1)	着実に増加	
施策の名称	成果・課題と取組方針				
(1) 公共交通をより便利で快適にする	成果	・バス停上屋の整備やバスの中扉乗車への移行に向けた調整、鉄道ダイヤに合わせたバスのダイヤ調整など、公共交通の利便性が向上			
	課題	・引き続き、バスの定時性・速達性の向上や運行時間帯の拡大など、公共交通の更なる利便性向上に取り組むことが必要			
	取組方針	・引き続き、バスの中扉乗車への移行などの定時性・速達性の向上とともに、バス路線再編の中で、運行時間帯の拡大について検討する。			
(2) 公共交通に関する案内情報を充実させる	成果	・バスマップの配布やバスロケーションシステムの拡大、駅西口バス乗降場への案内標識の設置など、公共交通に関する案内情報が充実			
	課題	・バス停や停留場における接近表示機や案内標識の整備とともに、バスの方面別系統番号など、公共交通の案内情報の更なる充実が必要			
	取組方針	・引き続き、バス停や停留場への接近表示機の設置や案内サイン整備の検討とともに、バスの方面別系統番号の導入を検討する。			
(3) 安全・安心な交通環境を整備する	成果	・ノンステップバスの導入によるバリアフリー化やLRT導入後の交通ルール等の情報発信により、安全・安心な交通環境の整備が進捗			
	課題	・引き続き、鉄道駅や路線バス、タクシーなどのバリアフリー化の取組やより広範囲でのLRT導入後の交通ルール等の周知が必要			
	取組方針	・引き続き、鉄道駅のバリアフリー化やノンステップバスの導入に加え、LRT導入後の交通ルール等の県内での発信に向けて取り組む。			
(4) 自動車から公共交通へ移動手段を転換する	成果	・各種モビリティ・マネジメント(以下、MM)施策により、公共交通利用への意識啓発が図られるとともに、LRT導入やバス再編を見据えたモビリティ・マネジメント施策の実施に向けた検討が進捗			
	課題	・運転免許自主返納者の増加などの社会潮流やLRTなどの公共交通ネットワークの充実を見据え、効果的なMM施策の実施が必要			
	取組方針	・ICカード導入等と併せた効果的な意識転換策の実施とともに、LRT開業やバス再編を見据えた実効性の高い利用転換策を検討する。			
重点事業名称	進捗評価(◎:予定通り ○:概ね予定通り △:一部未実施)				
バスの定時性・速達性の向上	◎				
バスの運行情報の提供	◎				
公共交通の案内サインの充実	◎				
交通施設のバリアフリー化の推進	△				
モビリティ・マネジメント施策の推進	◎				
合計	◎:4 ○:0 △:1				

※進捗評価は、当該年度当初に予定した事業内容の進捗状況の評価

【基本方針4】交通を「ひろげる」・・・詳細は別紙1-4参照

目標指標		基準年	評価年	進捗評価	備考
① 交流人口(観光入込客数)		1,499 万人 (H29)	1,513 万人 (H30)	着実に増加	
施策の名称		成果・課題と取組方針			
(1) 最新の科学技術を活用して交通を発展させる	成果	・路線バスへのEVの活用に向けた検討や一部自動運転による観光二次交通の社会実験の実施, 自動運転化も見据えた地域内交通の運行効率化の検討など, 最新の科学技術を活用した取組を推進			
	課題	・自動運転技術やEV, FCVなどの最先端技術の公共交通への活用について検討を進めることが必要			
	取組方針	・引き続き, 路線バスやタクシーなどへのゼロエミッション車の導入に向けた検討とともに, 将来的な自動運転化を含む地域内交通の運行効率化に向けた検討を進めていく。			
(2) 新たな移動サービスを活用して交通を充実させる	成果	・大谷地域を目的地とした「観光型MaaS」導入の検討など, 新たな移動サービスを活用した取組を着実に推進			
	課題	・観光型MaaSや地域MaaSの導入の検討とともに, カーシェア等の新たなモビリティのMaaSでの活用の検討など, 新たな移動サービスを活用した公共交通の利便性向上が必要			
	取組方針	・引き続き, 「観光型MaaS」や「地域MaaS」の導入に向けて検討を進めるなど, 公共交通の移動利便性の向上に取り組む。			
(3) 広域的な交通ネットワークを充実させる	成果	・周辺市町とともに, 広域バス路線の利便性向上に向けた運行内容の見直しを検討するなど, 広域的な公共交通ネットワークの充実に向けた取組を推進 ・バスの乗り方教室や路線バスを活用したモニターツアーの開催など, 県央地域の3市5町が一体となって公共交通の利活用を促進			
	課題	・LRT導入やバス再編を見据え, 広域バス路線の運行内容を見直すなど, 効率的で利便性の高いバス路線の構築が必要 ・交通ICカードの導入効果を高めるため, ICカードの普及促進やICカードを活用したバスの利用促進に広域的に取り組むことが必要。			
	取組方針	・引き続き, LRT導入後の広域バス路線の運行内容の検討に周辺市町とともに取り組む。 ・交通ICカードの普及促進やICカードの導入を契機とした公共交通の利用促進に周辺市町と連携しながら取り組む。			
重点事業名称		進捗評価(◎:予定通り ○:概ね予定通り △:一部未実施)			
バスやタクシーへのゼロエミッション車の導入推進		◎			
広域バス路線の充実		◎			
合 計		◎:2 ○:0 △:0			

※進捗評価は, 当該年度当初に予定した事業内容の進捗状況の評価